

学びのデザインシート（授業後）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史／世界史探究】

1. 対象 普通科2年生

4年制大学への進学希望の生徒が大多数を占め、受験科目として世界史探究を利用する。地図やグラフなどの読み取りに慣れており、ペアワークやジグソー学習など生徒同士で共有しながら積極的に取り組んでいる。

2. 単元名 「5 南北アメリカ文明」(全2時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	南北に長く広がるアメリカ大陸の各地で、それぞれの地域の環境に適応した文化・文明が発展したことを理解している。
学びに向かう力、人間性等	南北アメリカ文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

MQ: アメリカの文明はユーラシアの文明よりも発展が遅れたのはなぜか？

考えるための材料

材料A	材料B	材料C
<p>れSQ: 「アメリカ大陸が発展しなかったのは、家畜の種類がユーラシア大陸よりも少なかったせい？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シルクロード」 ・「農産物と家畜の起源」 ・「輸送手段と積載量」 	<p>きSQ: 「なぜアメリカ大陸では遠距離交易が発達しなかったのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海の道」 ・「季節風」 ・「世界の気候区分」 ・「垂直統御の例」 	<p>しSQ: 「アメリカ大陸における農業はユーラシア大陸に比べ遅れていたのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メソポタミアの灌漑農業」 ・「アステカのチナンパ農法」 ・「農耕文化の発生地と伝播ルート」 ・「トウモロコシ」
想定される活動		
<p>ユーラシアと比べて、馬や牛などが存在しなかったが、大型の家畜が存在しないためリャマなどの群れや人力が重要な役割を果たしていたことを理解する。</p>	<p>ユーラシアと比較し、アメリカは南北に多様な気候や環境が存在しており、高度によって異なる資源を入手して生活を成立させていたことを理解する。</p>	<p>ユーラシアと比べて大河はないが、湖や河川を対象として大規模な治水事業をおこない、高い生産性を誇る農耕文化が発展していたことを理解する。</p>

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

単元のながれ

【ペアワーク（5分）】 人身供犠などの信仰を紹介し、印象を話し合う。

【エキスパート活動（10分）】 資料を読み解く（個人 → 集団）

<エキスパート課題れ>

・大型の家畜がユーラシア大陸にまとまって分布していた一方で、アメリカ大陸では小型の家畜でも集団になれば重い荷物を運ぶことができた。家畜の種類が文明の発展には関係がないようである。

・大型の動物が家畜化されなかったため農作業、財や情報の輸送、都市の建設など、すべての活動は人によって行われた。

<エキスパート課題き>

・アメリカ大陸には季節風が吹くことがなく、東西への交流が少なかった。また、アメリカ大陸では南北に移動することで様々な気候帯があるため遠距離交易は発達しなかったが、異なる高度間の交易は発達した。

・北米地域では気候は温暖で、広大な平原に恵まれている。中南米地域では、熱帯雨林気候に属する赤道付近をはさんで、南北に乾燥地帯が広がっている。

<エキスパート課題し>

・メソポタミアの灌漑農業は乾燥した気候のために、水分が蒸発し塩害が発生してしまうなど持続可能な農業ではなかった。

・アメリカ大陸のチナンパ農法は収穫量が高く、持続可能性が高い農法であった。

・農耕文化の伝播ルートと大河の関係性に着目すると、必ずしも大河の近くに発展するわけではない。

【ジグソー活動（10分）】 【クロストーク（10分）】 【考察個人（10分）】 【まとめ（5分）】

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

・文明は大河の近くでのみ発展するわけでないから。

・アメリカの文明は、ユーラシアの文明とは異なる環境に適応したため発展が遅れたとは言えないから。

・文明同士を画一的な基準により比較することは妥当ではなく、各文明に内在する論理にしたがって異なるあり方が見られるから。

・そもそも問いの設定がおかしい。